

# 北小植物歳時記

## ウ　　メ

正門を入ると梅の香りが漂います。剪定をしないので、枝は伸び放題。野性味あふれて、なかなかです。反対側にある梅は、逆に枝がほとんどない寂しいものとなっています。

梅の種類はわかりません。紅梅なので実はほとんどできず、たまに1～2個、枝についていることが見られる程度です。例年、卒業式には満開となり、卒業生を祝ってくれています。

梅は中国原産で、奈良時代の遣隋使や遣唐使が持ち帰ったと言われています。「万葉集」の頃は白梅が、平安時代になると紅梅が人気で、万葉集では梅について百首以上が詠まれており、植物の中では「萩」に次いで多いとか。



「梅一輪　一輪ほどのあたたかさ」と詠われていますが、今日はもう、三百輪？ほどの暖かさになりました。梅に鶯というのも風流ですが、今は時々メジロがやってきます。ウグイス＝緑色というイメージがありますが、実際は灰色っぽい鳥です。色的にはメジロが似合いますね。でも、メジロってせわしく動くので、風流さがなくて残念です。

